

町内垣出

伊勢街道の往来で繁栄

戦国時代の永正一二（一五一五）年に作られた「多武峰領膳夫荘差図」という談山神社所蔵の領地絵図に、領地・膳夫荘（かしわでそう）の一部として「出垣内里」が注記されています。

この注記が江戸時代に入ると「膳夫村之枝郷」に変わります。寛文四（一六六四）年ごろから注記がなくなりますので、このころ以降に「出垣内村」が膳夫村から独立・分村したものと考えられます。出垣内村の地名は、その後も江戸時代から明治維新以後まで続きます。

明治二二年の町村合併により香久山村の「大字・出垣内」となります。大正二年に国鉄・桜井線（現JR桜井線）の香久山駅が、当地の東北部に開設されています。昭和三年三月に桜井市の大字となったあと、同年一〇月に橿原市へ編入され「橿原市出垣内町」となりました。

出垣内町をはじめ隣接する当地一帯は、古代から東西に走る伊勢街道（横大路）の往来によって発達・繁栄してきました。かつて桜井市吉備との境界にある黒田池の底から、後期の縄文土器や弥生土器など古代の遺物多数が出土しています。古い時代から当地に人が住み生活を続けてきた、なによりの証拠といえましょう。